

令和 4 年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属天王寺中学校

1 附属天王寺中学校の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属天王寺中学校

(2) 所在地

大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

(3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員432人(1学級: 36人)

(4) 幼児・児童・生徒数

432人(男子216人・女子216人)

(5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 教諭 19人(うち, 臨時的雇用5人,),

非常勤講師 5人

事務職員 3人(専任1人, 事務補佐員2人), 臨時用務員(用務員)1人

2 附属天王寺中学校の特徴

質実剛健の校風のもと, 生徒一人ひとりがお互いの多様性を尊重し合う中で, 主体的に協同的な学びを展

開していくことを重視し, 将来の市民社会をリードしていくための“生きる力”の育成をめざしている。

天王寺型中高連絡進学に基づく6年一貫教育の研究と実践を続けている。

3 附属天王寺中学校の役割

- (1) 大阪教育大学と一緒に, 教育の理論と実践に関する研究を行うこと。
- (2) 教育に関する理論を実践し, 授業や研究会で実証すること。
- (3) 大阪教育大学の教育実習機関として, 効果的な実習活動を行うこと。
- (4) 大阪教育大学が行う現職教員の再教育の一端を担うこと。

4 附属天王寺中学校の学校教育目標

- ・ 正義を愛し, 真理を追究する旺盛な向学心を持ち, 透徹した判断力を養う。
- ・ 強固な意志を持ち, 頑健な心身を育て, 自主的・積極的な実践力を身につける。
- ・ 他人を愛し, 自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。
- ・ 社会の一員となるための, 責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。

5 附属天王寺中学校の学校教育計画

1. 生徒の学力と, 「生きる力」を育てる活動を, 各教科・分掌で工夫し, 実践する。また, 自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動をする。
2. 生徒の活動を支えるための, 教育環境を整備・充実させるとともに, 生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。
3. 学校独自の取り組みを通してカリキュラム全体の充実を図り, 教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

6 附属天王寺中学校の令和4年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準			
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
E	判定できない		

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。 強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	1. 生徒の学力と、「生きる力」を育てる活動を、各教科・分掌で工夫し、実践する。また、自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を活用する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)生徒の学力向上と、自律的な学習・生活習慣の確立を進める。特に、自宅学習における自立性、主体性の育成を図る。	■教務部 学習支援においては、すべての教員がグーグルクラスルームを十分に活用することができている。マイクロソフトのチームスを用いて、中高における時間割の共有等も行っている。	学習支援においては、すべての教員がグーグルクラスルームを十分に活用することができている。マイクロソフトのチームスを用いて、中高における時間割の共有等も行っている。	チームスを用いてより円滑な中高の教務情報の共有を図る。	B	保護者観点からは、推測している以上にClassroomを活用頂き、子どもたちの自律性・主体性を促して下さったと思います。	B	家庭の教育方針としてICT機器の導入に反対擦る保護者が一定数存在するので、正の教育効果をさらに求めていくとともに、積極的に保護者と情報を共有する必要がある。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)生徒の学力向上と、自律的な学習・生活習慣の確立を進める。特に、自宅学習における自立性、主体性の育成を図る。	<p>■生徒指導部</p> <p>①学芸会や音楽会等の行事や議会運営等の学校生活のあらゆる場面で生徒の主体的に自立的な活動や自治を支援し、生徒が成長できる場面を保障する。</p> <p>②十分な感染対策と行事開催を両立させ、生徒の達成感や自己肯定感を育む方策を提案し主導する。</p>	<p>①コロナ禍以前と同等の活動ができるよう、生徒が主体的・自立的に取り組み、成長できる場面を設定することができた。</p> <p>②十分な感染対策と行事開催を両立させ、昨年度よりもより充実させることができた。</p>	来年度に向けて、生徒がより主体的・自立的に活動できるよう、中高生徒指導部で連携を行う。また、生徒の達成感や自己肯定感のさらなる向上を目指し、生徒とともに改善策を検討する。	A		A	特記事項なし
	<p>■国語科</p> <p>学年を問わず、授業内に読むこと、話すことの活動を重点的に取り入れ、自立してテクストに向き合う学習者を育てる。</p>	各担当者ごとに、読むこと、話すことの活動を授業内に取り入れることができた。活動を通して、読書に親しみ、主体的に学ぶ姿勢を涵養することができた。	学習活動を通じて、それぞれの学習者が獲得する言語的リテラシーについて、さらに検討を深め、授業との関係性を分析していく必要がある。	A		A	特記事項なし
	<p>■社会科</p> <p>社会科で育てたいコンピテンシーを考えて共有化し、生徒自身が自主的・自律的に学習をし、学びを深めていくことができるよう指導する。公民的資質・能力の育成を目標とし、各授業のなかで多角的な観点から思考できる能力の育成を図る。</p>	公民的資質・能力の育成を目標として、多面的・多角的な観点から思考する授業の実施を行うことができた。特に、生徒自身が自主的・自律的に調査し、発表するような場面を設定することができた。	教科として、さらなる学力向上を目指した授業研究を行う。また、自宅学習における自立性、主体性の育成も図ることができるように、教科として検討していく。	A		A	特記事項なし

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)生徒の学力向上と、自律的な学習・生活習慣の確立を進める。特に、自宅学習における自立性、主体性の育成を図る。	■美術科 「造形的な見方・考え方」を働きかせ、学校だけでなく普段の生活、身のまわりを造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値を作り出す意識を育む。そのために、授業内で造形的な視点を働きかせる考え方、捉え方を学び、日常生活のなかでその視点を働きかせる課題を課す。(中)	美術科における創造性を、豊かな視点の育成と定義。夏と冬の長期休みに、身近なものや風景を、造形的な視点を働きかせて捉えるレポート課した。評価Aの割合は2学期75.5%（143名中108名）、3学期では79.5%（142名中113名）であり、1度の実施で終わらないことで、視点の定着を図った。	評価について、努力を要するC評価の生徒はいなかった。しかし、概ね満足である評価Bの生徒が、2学期に35名、3学期に29名おり、減少傾向にあるとはいえる、定着には一定の回数と相互鑑賞などから、視点の深まりを促す取り組みの必要があると考える。	B		A	特記事項なし
	■保健体育科 課題解決的な学習過程で授業を進める中で自主・自律的な行動能力を高める。課題解決的な学習過程を中心とするため、ルールや練習方法など自分たちで調べ、技能の向上に繋がるように指導する。	グループでの活動を中心とし、自分たちでルールの確認を行いながら各種目に取り組むことができた。また、高校では男女共習でも自分たちで練習方法について話し合い、練習することを通して技能の向上や協力してスポーツを楽しむことを経験させることができた。	生徒がより主体的に活動を選択できるようになるためのチームでの活動と教え込みのバランスを考える。	A		B	特記事項なし
	■技術家庭科 技術・家庭科では、単に知識理解だけでなく、技能獲得を伴った実践教育の部分がある。実践は残された時間を有効に利用できるように、工夫して取り組みたい。	ロイノートやクラスルームなどのICTを活用し、プログラム教育の充実を図った。通常の授業においてChromebookの活用においてはどの生徒も遜色なく活用できるようになった。	今後はさらなるICTの活用と技術の向上と、効率的な授業展開を目指す。また効率化を図った上で授業にゆとりを作り探究の時間を充実したい。	B		A	特記事項なし

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
	■英語科 個に応じた学びを取り入れる。自己調整学習ができるよう、個々の生徒が課題を設定し、学び、振り返る機会を設け、それらを教師が支援する。	パフォーマンス課題ごとに生徒一人ひとりが取り組みを振り返り、それらをもとに教師が形成的評価をすることができた。	振り返りをおこなう頻度や主体性評価の方法については、引き続き研究が必要である。	A		A	特記事項なし
(2) 互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、協働を通じて個々の生徒の力量を十分に發揮させる。	■生徒指導部 全教員が生徒会活動（部活動指導、議会・委員会の運営等）に積極的に関わる体制を構築し、分掌として組織的に支援する。 校種や発達段階に応じた指導体制を確立し、生徒一人ひとりが成長し活躍できる場面をつくることができた。 ■研究部 特別支援コーディネータと協力し、高機能自閉症について重点的に学び、伸び悩んでいる生徒の能力を引き出す対応策を考える研修会を立案する	生徒会・自治会活動（部活動指導、議会・委員会の運営等）により活発にし、様々な取り組みを実現することができた。 また、校種や発達段階に応じた指導体制も構築し、生徒一人ひとりが成長し活躍できる場面をつくることができた。 研修会では、中高教員の交流を主軸にICTを活用しそれぞれの考え方を共有できるように工夫した。	生徒会・自治会活動に対する教員の関わりがまだ限定的であるため、全教員がより積極的に関わる体制を、中高生徒指導部で連携し、検討していく。 中高での交流会がこの1回で終わっているので次年度は年間を通して、交流し意見を言い合える場を設けたい。	B		A	特記事項なし
	■健康人権教育部 中高合同で特別支援研修を開催し、個別最適な学びの実現に努める。	特別支援研修を開催し、元大阪教育大学附属特別支援学校相談・支援センター アドバイザーの森田先生に、「高機能自閉症の理解と対応」というテーマでご講演いただいた。	講師の先生が紹介してくださった事例が小学校での事例であったため、少し附中高生にあてはめてイメージしにくかった。附中高生にあてはまる事例について、中高の先生方でグループワークを行い、意見交換を行いたい。	A		E	保護者および生徒には見えにくい目標設定および達成度評価であったと考えられる。特別支援のあり方について、積極的な情報共有を進めたい。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(2) 互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、協働を通じて個々の生徒の力量を十分に発揮させる。	■国語科 討論活動、発表活動とそれに至る話し合いや意見交流の機会を担保し、協働を通じて個人が様々な学びを得ることのできる学習集団を育てる。	様々な言語活動の場を活用し、主体的に自己の意見を表現する姿勢、他者の意見を受け止める姿勢を涵養することができた。	生徒個々の能力や興味に応じて、一人ひとりがさらに主体的に能力を發揮し、他者と協働して成果を生み出す場の設定。	B		A	特記事項なし
	■数学科 グループワークを中心としたアクティブラーニング等を授業に取り入れ、各々の生徒の傾向や能力を明らかにさせ分担・統合の姿勢が育まれるよう努める。そのためには、それに相応しい授業を用意する必要があり、つまりは教育内容を構築しなければならない。	グループワークを中心としたアクティブラーニング等の活動を授業の中で取り入れることにより、各生徒の改善すべき課題や授業者が育成すべき生徒の能力などの見当をつけることができた。	見当をつけた内容の是非を問い合わせながら、授業実践を行い、実践研究のデータの蓄積を行う。	B		A	特記事項なし
	■理科 実験や観察などを通して「協働する能力」や「科学的に探究する力」を伸ばすための授業実践に取り組む。ICTを活用して情報を共有させる。	複数人で協働して行う実習・実験を実施し、議論の機会を設けた。ICT機器の活用も進めている。	実施している実習・実験の『探究のレベル』を分類し、各段階における生徒の達成度を評価する。	A		A	特記事項なし
	■音楽科 グループでのアンサンブルや発表の機会を多く取り入れ、自己表現することの喜びを生徒自身が実感できる授業を開く。	題材のまとめとしてグループでの発表を多く取り入れ、中高どの学年においても発表する機会を大切にし、アンサンブルを通して生徒自身が自己表現する喜びを実感できるよう授業を開いた。	多様な発表形態を模索し、実践へつなげていく。	A		A	特記事項なし

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
	■保育科 ICT機器を利用した動画の撮影やチームでの活動を通して、お互いに成長し合えるよう協働的な活動を取り入れる。	ホワイトボードや作戦板、學習カードを用いたことで、話し合いを深め、チームでの学習が活性化し、チーム内で成長を実感しながらスポーツを楽しむことを経験させることができた。	陸上など、球技以外のスポーツでのICTの活用の仕方について、活用方法を引き続き模索する。	A		B	特記事項なし
(2) 互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、協働を通じて個々の生徒の力量を十分に発揮させる。	■技術家庭科 技術・家庭科では、単に知識理解だけでなく、技能獲得を伴った実践教育の部分がある。学校での実践を通して、同じ作品や作業でも、個々でやり方の違いや個性が出てくる。個人の作業ではあるが、班などのグループで教え合うことで、協働学習の要素が出てくるものと考える。	技術・家庭科の授業を通して、知識理解だけでなく、技能獲得において、班などのグループで教え合うことで、協働学習の要素が出てきて、非常に教育的評価も向上した。	技術・家庭科の授業を通して、知識理解だけでなく、技能獲得において、班などのグループで教え合うことで、協働学習の要素が出てきて、非常に教育的評価も向上することが分かったが、さらに向上させるには、実習題材を工夫した実施を考えいかねばならない。	B		A	特記事項なし
	■英語科 協同的な学びの質を高める。一人ひとりの個性・能力が十分に発揮され、自己肯定感を高められるよう、タスクのデザインやグループワークの評価方法を工夫する。	生徒一人ひとりの個性や能力が発揮されるような協同的な学びの設計に努めた。ペアやグループでのパフォーマンス課題を与え、個人ではなくペアやグループ全体のパフォーマンスを評価する実践も行うなど、タスクのデザインを工夫し、生徒の学びの質を高めることをめざした。	協同的な学びによって自己肯定感や生徒の学びの質が実際に高まったかを検証し、さらなる授業改善につなげたい。	B		A	特記事項なし

6 附属天王寺中学校の令和4年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準				
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である	
B	達成できた	B	おおむね適切である	
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない	
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない	
E		E	判定できない	

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。 ・強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ・他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ・社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 将来の目標を見据えた進路意識を高めさせ、その実現に向けた支援を行う。	<p>■教務部</p> <p>(中高)校務支援システムへの移行が円滑に行えるよう教務システムのさらなる改良を行うとともに、教員に周知徹底する。(中)校務支援とは別立ての連絡進学に係る帳票の作成を進路指導部と連携しながら作成し、校務支援システムとの連携方法を整理することで、進路指導への支援を行う。</p>	<p>(中高)校務支援システムを用いて出欠の管理や成績処理を行った。システムの移行は円滑に行われつつある。(中)連絡進学のシステムと連携した帳票について運用を行った。</p>	(中高)校務支援システムのさらなる活用のあり方を進路指導部とも連携して考える。	A		A	特記事項なし

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 将来の目標を見据えた進路意識を高めさせ、その実現に向けた支援を行う。	■進路指導部 (中高)令和3年度より取り組んでいるキャリア・パスポートについて、本校の特色ある学校行事・日常的な教科教育・特別活動を反映した附属天王寺型の書式を作成する。(R4検討R5実施を目指す)	(中高)キャリア・パスポートの書式案を作成し、現高1で試行し始めた。(2月末)	(中高)キャリア・パスポートの試行結果を経て、書式・構成について改良を重ねる。	A		A 特記事項なし	
	■技術家庭科 技術・家庭科は、中学校で唯一教科の内容に、幅広い進路意識を養うことができる科目であると考える。卒からいきなり社会に出ても有効な職業（料理人・大工・技能職人など）があることを、授業を通して指導することが可能であると考える。	技術・家庭科は、中学校で唯一教科の内容に、幅広い進路意識を養うことができる科目の特徴を活かす指導を実施した。	授業を通して、生活の中にはさまざまな技術が活用されていることに気づき、また社会問題を解決していくために新たな技術家開発されることは気づかせ、その担い手になれるような展望を持たせたい。	C	子どもたちのノートやプリントを確認し授業の様子を聞き取った上の感想は、家庭内では「当たり前過ぎて意識しないこと」に目を向けて頂いたと思います。先人からの工夫や、それらの工夫が改良されたもので生活は支えられていることに個々が気付く、話し合う時間も確保頂いているようですので、将来への何らかのエッセンスは得たと思います。	C 教科での自己評価は低かったが、保護者はその教育効果を十分に認識している。学習指導する側の評価の観点を変えることで、生徒および保護者との共感性を高められるのではないか。	

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(2) 生徒と教員が協働して健康と安全を意識した教育環境の整備を図る。	■健康人権教育部 学校が有する防犯、災害リスクに対して、生徒・教職員がリスクを共有し、予防的行動を適切に行えるように、訓練やマニュアルの整備を行い、生徒・教員の減災・防犯意識を高められる安全教育を推進する。	年度当初に防犯と防災のそれぞれのマニュアルを統合した危機管理マニュアルを作成した。また、6月に防犯、11月に防災の2回の避難訓練を実施した。	防犯避難訓練では、緊急放送が聞こえなかった場所があつたり、大グラウンドの放送設備が使用できなかったりと、事前に放送機器を確認しておくことが必要であった。また、安全講話を聞く生徒の態度にも課題が見られたことより、生徒・教員の避難訓練に対する意識変革の取組も今後必要だと考える。	B		B	特記事項なし
	■庶務部 校内の設備の不具合について、大学や事務室と連携をとり、生徒の学習環境の改善を図る。	普通教室のプロジェクターや東南館のカーテンなど、適宜対応を行い、生徒の学習環境を改善できた。	経年変化に伴い老朽化している部分もあり、今後も対応が必要な部分が出てきている。	A		A	特記事項なし
	■理科 「安全」と「感染防止」への意識を高める指導を引き続き徹底しつつ、実験や観察を多く実施する。	「安全」「感染防止」の指導面での対応も引き続き行い、問題なく授業が実施できた。	今後も継続していくとともに、試薬・器具の安全な取り扱いの指導により一層取り組む。	A		A	特記事項なし

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(2) 生徒と教員が協働して健康と安全を意識した教育環境の整備を図る。	■音楽科 管理職や大学と連携し、生徒たちが安心してのびのびと芸術活動に取り組むことができるよう、音楽室や音楽棟の環境整備を早急にすすめる。	昨年度に引き続き、事務室や校務員と連携しながら、生徒とともに物品の整理をすすめているが、状況はあまり変わっていない。本校の芸術の伝統を継承・発展させていくためには、音を学ぶ「場所」が必要不可欠である。	本校の音楽室には楽器庫がないため、楽器を安全に保管する場所がない状況が続いている。また音楽棟についても使用が一部できなく、生徒の芸術活動に制限がかかっている。引き続きこの状況の改善を具申し、生徒たちが安心して芸術活動ができる環境を整えていきたい。	C		A	特記事項なし
	■技術家庭科 技術・家庭科での実践は、衛生的な環境が必要な調理実習や粉塵の伴う作業が出てくる作業環境での実習実践が出てくる。それゆえ、他教科と比べて指導する教員が意識して清掃指導を実施するなど、環境整備を図ることが重要である。	技術・家庭科での実践は、衛生的な環境が必要な調理実習や粉塵の伴う作業が出てくる作業環境での実習実践が出てくるため、日常的な清掃指導では、指導する教員が意識的に環境整備を実施した。また清掃作業では実現できない環境整備は、管理職の先生にお願いして改善を図った。	技術・家庭科における、衛生的な環境や粉塵の伴う作業が出てくる作業環境整備では、清掃作業では実現できない環境整備をお願いする際に、できるだけ複数の指導教員で確認して、管理職の先生にお願いすることが重要である。	B		B	特記事項なし

6 附属天王寺中学校の令和4年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準				
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である	
B	達成できた	B	おおむね適切である	
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない	
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない	
E	判定できない			

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。 ・強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ・他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ・社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	3. 学校独自の取り組みを通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 現代的な学力観に対応した教科指導法の工夫と、カリキュラム全体の改善を図る。また、ICTを活用した学習指導の実践を進め、その効果と課題を探る	<p>■教務部</p> <p>(中)ICTの活用推進をめざし、手軽に授業内での活用ができるよう、一人一台体制の方向性について検討をすすめる。</p>	(中)庶務部や生徒指導部等と連携しながら一人一台体制の構築に向けた準備に取り組んだ。	(中)一人一台配布に向けて管理体制の完成を行う。	A		A	特記事項なし

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 現代的な学力観に 対応した教科指導法の工夫と、カリキュラム全体 の改善を図る。また、ICTを活用した学習指導 の実践を進め、その効果と課題を探る	■生徒指導部 生徒指導におけるICTの活用を模索し、生徒会活動、行事、部活動などの場面でICT活用を実践する。 また、情報モラル研修などを企画し、生徒が安全で正しくICTを活用できるよう、適切な支援を行う。	様々な行事において、ICTをより効果的に活用できるよう指導することができた。 また、情報モラルの育成ための企画や研修、指導などをを行い、生徒が安全に正しくICTを活用できるよう支援することができた。	ICT機器のさらなる活用とともに、情報モラルの意識向上も継続して行う。生徒に対してだけではなく、教員のICT活用と情報モラル指導のための研修など、生徒指導部を中心に行っていきたい。	A		A	特記事項なし
	■研究部 コンピテンシー（資質・能力）を軸にした授業デザインを検討する。	各教科で検討を始めた。教育研究会では発表教科はテーマを中心に発表することができた。個別最適化した授業デザインの検討を行うことができた。	教科ごと、または各自での取り組みは行うことは出来たが、その共有の時間を持つことが出来なかった。共有の時間を次年度は、増やし、ICTの活用についても検討する。	A		A	特記事項なし
	■庶務部 附属学校課や他部署と密に連絡を取り合いICTを活用した授業実践を行うための環境を整える。 ICT支援員制度を活用し、機器の整備や授業実践へのサポートをする。 Chromebookを中学生に配布し生徒のスキル向上のための基盤を作る。	多くの場面で、附属学校課やICT支援員と連携をとり、機器の整備を行った。 中学校についてはChromebookを全生徒に配布し、授業の活用の場面が増えるように準備を行った。同時に授業支援ツールを試験的に導入し検討を進めた。	B Y O Dの推進に合わせて環境面での対応が今後も検討していく必要がある。	A		A	特記事項なし

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 現代的な学力観に対応した教科指導法の工夫と、カリキュラム全体の改善を図る。また、ICTを活用した学習指導の実践を進め、その効果と課題を探る	■国語科 各言語活動に対する評価の方法を探究し、生徒の能力の向上に付与できるメソッドを開発する。ICTを活用した授業実践を行い、校種・学年を超えて授業づくりを行う。	年に3回の研究協議では、事前に記録した授業の様子をもとに、小中高の教員が主体的に意見を交換することができた。ICTの活用や教科横断的な取り組みについて、様々な実践を検討することができた。	今年度明らかになったICTの活用や教科横断的な取り組みをする上での課題について、どのようなアプローチをするべきか検討していくことが引き続き求められる。	A		A	特記事項なし
	■社会科 授業内容において、中高社会科での連携や他教科との連携を考え、実践する。授業方法も工夫し、多様な視点で事象を理解でき、それを積極的に表現・発信できる生徒を育成することを目的として授業方法を工夫し実践する。	多様な視点で事象を理解し、それを積極的に表現・発信できる生徒を育成することを目的とした授業を実践することができた。また、状況に応じてICTも積極的に活用し、その効果と課題を探ることができた。	中高連携をより深め、カリキュラム全体の改善を図る。特に、授業内容について、教科や学年、校種を超えた、横断的な学習の取り組みを進める。	B		A	特記事項なし
	■理科 目的に応じたICT機器を活用した授業の実践に取り組み、その学習効果の評価方法について整理検討する。	Google Classroomに加えて、中学校では授業支援ツールを検討し、授業中に生徒の成果物を提示するなどの取り組みを行っている。高校は来春からのBYODに向けて課題を整理した。 他方で、学習効果の評価には至っていない。	中高ともに、ICT機器を活用した授業の学習効果の評価方法について整理検討する。	B		A	特記事項なし

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 現代的な学力観に 対応した教科指導法の工 夫と、カリキュラム全体 の改善を図る。また、I CTを活用した学習指導 の実践を進め、その効果 と課題を探る	■音楽科 異学年集団による音楽科授業を実施し、その効果と課題を探る。	昨年度に引き続き、中学1年生と2年生で同一課題による合同歌唱授業を実施した。互いが刺激し合う環境となり、歌唱技能の高まりがみられた。	2年間の実践を生かし、取り組みを継続するとともに、校種を超えた中高異学年集団による授業を計画したい。	A		A	特記事項なし
	■美術科 ①問題解決学習を協働で行い、それを通して発想や技能が相互に交流する授業の実践 ②ICT活用として、特にデザイン分野での従来のアナログ着色に限らず、タブレットによるデジタル作画のプリントアウトで、作画に苦手意識がある生徒も含めて発想を具現化する環境の整備とその実践。	①第3学年では、課題解決型学習として、設定した飲食店の食品をよりよく宣伝するために食品サンプルとポスターを制作。客へのアピールを念頭に、如何にして他者へ魅力を伝えるのかをグループで協議し、制作に取り組めた。 ②パナソニック教育財団より支援を受け、美術室内に3台のプリンタを設置。第2学年で、家庭科の調理実習と連携し、調理した食品を持ち帰るパッケージ制作を実施。タブレットで作図、印刷し組み立てることで、制作を試し、改善を反映することが容易になり、自己調整を促す学習に取り組めた。	ポスター制作やBGM制作では、多くの生徒がタブレットを使うことが必須という意識の授業設計になってしまった。ICT活用は手段であり、生徒がアナログもデジタルも選べる、選択意思の尊重こそが本来の個別最適化であると考え、実践をする。	A		A	特記事項なし

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 現代的な学力観に 対応した教科指導法の工 夫と、カリキュラム全体 の改善を図る。また、I CTを活用した学習指導 の実践を進め、その効果 と課題を探る	■保育科 ICT機器を利用した動画の撮影やチームでの活動を通して、お互いに成長し合えるように協働的な活動を取り入れる。	中学では大学と連携し、心拍数等を図る機材を使用し、運動負荷をリアルタイムで把握する試みを行った。	陸上など、球技以外のスポーツでのICTの活用の仕方について、活用方法を引き続き模索する。	B	「何のために心拍を測るのか」などを、もう少し深くご教授頂きたいなあと思いました。	B	目的を明確にした、自己評価の文章表現に留意させたい。
	■技術家庭科 「防災学習」を軸として教科横断的な学習指導に取り組み、生活の中に当たり前に「防災」の意識を持つ事を目的として授業を進める。	理科・技術・家庭と連携して「防災学習」に取り組み、「自助・共助」の視点から「防災」を考える授業に取り組んだ。天王寺区役所・天王寺消防署など地域機関とも連携し、より実践的な学習に取り組んだ。	共助に焦点を絞り、より具体的な行動が取れるように「心肺蘇生」や「怪我の処置」などの実践的な授業の展開や	A		B	特記事項なし
	■英語科 ICT活動を促進し、デジタル教科書を使用することによって、自ら学び続ける生徒を育てる。	思考ツールやアイディアを共有する方法として、アプリケーションを活用した。また、Google Classroomを介して(解説)動画や教材を共有し、生徒が場所を選ばず学べる環境を用意した。	今年度から、デジタル教科書が導入されたが、生徒のデジタル教科書の活用頻度は低いため、その課題と有効性を検証していく必要がある。	A		A	特記事項なし

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(2)社会の国際化や多様化に対応する力の育成に向けた取り組みを進めます。	■進路指導部 (中)中学3年生を対象に、進路指導通信「羅針盤」を毎月発行し、中学での活動や学びのプロセスを明確にし、蓄積した記録を共有することで円滑な接続を図る。	(中)左記の計画通りに実施した。	(中)進路指導に係る事務的な内容が中心となったことから、次年度以降は附属高等学校での学習や行事といった点についても発信することができるようとする。	B	A	特記事項なし	
	■研究部 年3回の小中高推進日で話された各教科の内容を職員会議で報告し、社会との連携を進める。	小中高推進日を利用し情報交換を行った。	3学期小学校主担の企画連絡が遅れ、各教科で日程の調整が難しく実施困難な教科もあった。次年度は、年間を見通した運営を行いたい。	B	A	特記事項なし	
	■社会科 社会科で育てたい共通のコンピテンシーについて議論をし、明確化する。それともとに中高社会科が連携し、情報交換や授業見学を積極的に実施する。	社会科で育てたい共通のコンピテンシーについて議論をし、共通の指針を立てることができた。それをもとに中高社会科が連携し、情報交換や授業見学を一部実施することができた。	社会科における共通のコンピテンシーを、どのように育成していくのか議論し、授業改善を行う。また、中高での情報交換と授業見学をより一層積極的に行う。	B	B	特記事項なし	

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(2)社会の国際化や多様化に対応する力の育成に向けた取り組みを進める。	■数学科 数学教育を通して養い育てるべき生徒のコンピテンシーを明らかにする。その中高一貫ループリックを作成し、それに沿った教育内容開発・授業実践を試みる(試みの一端を教育研究会で公開する)。また、次年度へ向け「中高数学科オリジナルSTEAM教育」の構築を目指す。	9つのコンピテンシーにまとめ、それに沿った授業実践・教材開発を試みることができた。また、試みの一端を教育研究会などの公開授業や、研究集録を通して発信することができた。	来年度に向けて、中高数学科のSTEAM教育の構築が実現できるような体制を検討していく必要がある。	A		A	特記事項なし
	■理科 中高の連携を強化するため、理科のものの見方・考え方を通して6年間で育成したいコンピテンシーを具体的にあらわし、普段の授業のあり方を見直す。	本校のグラデュエーションポリシーを基盤に、理科を通して身につけさせたい「科学的に探究する力」について、具体的にまとめた。教育研究会にてその結果を発表するとともに、「分析・表現させる授業の実践」として発表した。	「科学的に探究する力」を育成するための6年間の実習・実験などを整理する。	A		A	特記事項なし
	■英語 昨年度中高それぞれが作成したCAN-DOリストをもとに授業実践を行い、中高の接続について協議しながら、一貫した指針を持てるようリストの統合を図る。	CAN-DOリストに掲げているゴールを意識しながら授業実践を行い、それぞれの取り組みを教科内で共有した。また、達成状況を測る方法の検討や検討した手法を用いて試行的にCAN-DOリストの検証も一部で行うことができた。	CAN-DOリストの分析と検証、及び中高のリストの統合には課題が残った。	C		A	特記事項なし

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(3) 本校の実践を広く地域に発信するとともに、教育実践・研究活動での地域との連携を進める。	■研究部 教科横断の取り組みを通して、附属天王寺型教科横断の定義づけを行う。	3月末には有志教員による教科横断の取り組みを行い、パネラーとして事業を行なっている方に依頼した。	今年度は、教科横断の取り組みの2年目として、有志教員で発表を行い、HPで呼びかけたが、次年度は取り組みの実践を増やしたい。	A		A	特記事項なし
	■健康人権教育部 大学や地域の防災関係者と連携し、学校防災力だけでなく、地域特有の災害的特徴を踏まえて、安全教育の構築および実践について研究を進めていく。	大学や天王寺消防署と連携しながら、避難訓練要綱を作成し、訓練を実施した。訓練後には、消防署の方に講話をもしていただいた。また、技術・家庭科をはじめとする教科や学年で安全教育を進めている。	天王寺消防署以外の地域の防災関係者と連携しながら、学校防災力の向上に努めていくとともに、外部機関にも本校の取組を発信していきたい。	A		A	特記事項なし
	■音楽科 日々の授業実践や生徒が芸術活動に取り組む姿をホームページで積極的に発信する。	音楽科授業における取り組みを本校・大学ホームページで広く発信した。	保護者や地域の方々に本校生徒が心から音楽を楽しんで演奏する姿を、今後も積極的に発信する。	A		A	特記事項なし

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(3) 本校の実践を広く地域に発信するとともに、教育実践・研究活動での地域との連携を進め る。	<p>■美術科</p> <p>①光村図書出版株式会社の令和7年度版中学校教科用図書「美術」編集委員として、日頃の研究で得られた成果を地域社会へ還元奉仕する。</p> <p>②「大阪府公立小・中学校美術教育研究会」と連携し、府下の中学校美術科教育の充実をはかる。</p>	<p>①教科書掲載題材の開発と生徒作品の提供。</p> <p>②「大阪府公立小・中学校美術教育研究会」で昨年度実施した、府下中学校美術科を対象とした実態調査の集計と分析をまとめた。またその結果を、本校を会場とした当該研究会の夏季中学部研修会で報告。また、当該研究会のHPにて調査結果を公表し、地域の現状と展望についての提案をした。</p>	<p>②本校は「大阪府公立小・中学校美術教育研究会」に所属しておらず、前部長であったことから仕事内容の引き継ぎも兼ねて参加、協力ができた。来年度以降は、正式に協力関係を締結し、教育実践・研究活動での地域との連携を目指したい。</p>	A		A	特記事項なし
	<p>■技術家庭科</p> <p>教育研究会を通して、地域の技術・家庭科の先生方と交流を持ち、「防災教育」をテーマとした新しい実践を広めて行きたい。特に「防災教育」は、政府がどの学校でも実施して欲しいとの意向があり重要な教育的視点となりうるテーマである。</p>	<p>教育研究会をテーマにすることにより、技術・家庭科と理科教育とのタイアップにより、1つの教科では実現しづらい新しい実践が可能になった。それにより、地域にも「防災教育」をテーマとした新しい実践を広めることができた。</p>	<p>「防災学習」をコンテンツベースで他教科と取り組むだけでなく、さまざまな教科での学びを技術・家庭科を通して日常生活の気づきにつなげ、生活を豊かにしていく授業を開拓していく。</p>	B		A	特記事項なし